

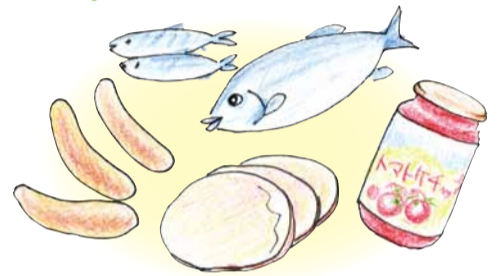


共生の時代

'10
5月

●発行:グリーンコープ共同理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876

みんなで利用キャンペーン はじまります!!



カタログGREEN8号 (5/3~配布)

Contents

ホームレス問題を考える 14	
「抱樸館福岡を地域づくりの拠点にしたい」	2
うちのメーカー・うちの生産者®	
(株)丸きんまんじゅう ふわっとクリームケーキ	3
第5回 GMOフリーゾーン全国交流会 in 遊佐	
グリーンコープはGM問題に反対し続けます!!	4・5
~グリーンコープのこだわり再発見!~ ネグロス	
再生したカネシゲファームは新たなネグロスの農業の拠点	6
フランスでの多重債務者対策と生活再生支援のようすについて	7

さまざまなお会いから生まれる活動



プロフィール
山口県柳井市生まれ。高校卒業と同時に地元を離れ、大阪の専門学校で保育士資格を取得。そのまま大阪府豊中市立の保育園に7年勤めた後、地元に戻り結婚。4年前に立ち上げた療育施設「NPO法人児童デイサービス3びきのこぶた」を2010年4月に設立。現在夫と長女(中1)・長男(小4)の4人暮らし。グリーンコープやまぐち生協組合員

要約筆記サークル「パンのみみ」代表

木村 能子 さん

「要約筆記」とは、講演会や学習会などで講師の話の要約を聴覚障がい者や中途失聴難聴者に文字で伝える筆記通訳のことだ。筆談とは違い、話の内容を正確に聞き取り、的確に要約することが求められる。言わば、文字によるコミュニケーションだ。

今から4年前、木村さんは市の社会福祉協議会が募集する要約筆記入門講座で耳が不自由な人のための要約筆記というボランティアの存在を知った。同時期、知人からの誘いを受けて療育施設で働きました。講座で知った聴覚障害に関することや、仕事で月に1度行う発達療育の研修内容が重なっていたことが偶然とは思えず、何かに導かれていくようにすすんでいった。講座が修了を迎える頃、このままでは終わらせたくないという気持ちから、受講者で有志を募り要約筆記サークル「パンのみみ」を立ち上げ、「要約筆記奉仕員」の資格を取得

した。今はまだ、要約筆記の認知度は低い。「スキルアップすることより、要約筆記という通訳のことをみんなに知ってもらうことが先。毎年小・中・高の学校に向き、子どもたちと交流しているんです」と、普及活動に余念がない。ある高校では生徒と一緒に簡単なワイトボード手帳を作った。手帳サイズにカットした段ボールを布で覆い内側にワイトボードシールを貼ったシンプルなもの。専用のマーカーで文字を書き、フェルト布が消しゴム代わり。「簡単に書いたり消したりできる優れもの。手話ができなくても聴覚障がい者とコミュニケーションできます。これを通して、たくさんの子どもたちに要約筆記のことを知ってもらいたい」。

要約筆記奉仕員として活動をする木村さんには心残りなことがある。「8年前に亡くなった父は老人性難聴でした」。周囲から話しかける声が聞こえない、常に大音量でテレビを見る。そんな父親に苛立ち、吐いた言葉が父親を傷つけていたのではないかと、後悔の念に駆られるという。生きていく間に要約筆記に出会っていったら。そう思う気持ちが、木村さんをさまざまな活動へと導いている。

他にも調理士・食育指導士・ジュニア野菜ソムリエなど、多才だ。「児童デイサービスの仕事やサークル活動など、さまざまな場での出会いがあり、それがきっかけとなって、また次へつながる。その中で人助けもできるんですね」。

木村さんは、バタバタと多忙な日々を過ごす。「こんな私を支えてくれる家族がいる。家族の協力があるからこそ頑張れます。忙しいけれど幸せな忙しさ、とても感謝しています」と、バイタリテイの源を明かす。持ち前の明るさと懐の深さに吸い寄せられるように、人の輪はさらに大きくなっていくに違いない。

まわりを田畑に囲まれて暮らしていると、自然と四季折々の変化を五感を通して感じる事ができる。小川のせせらぎ、小鳥のさえずり、蛙たちのラブコール……。それから、花々の甘い香り。また、茶色から鮮やかな緑、そして黄金色の稲穂がパアーツと広がる景色。時々、とれたての野菜をいただくことも。そんな風に、大地からの恵みを身体中に感じて育ったわが子は、小さい頃から、

送 信

私のグリーンコープ活動によくついてきて、産地交流や自転車隊の応援など、いろいろ一緒に参加してきた。そして、いのちの重さや、つながり、といったものをその年齢にあわせて受け取り、成長してきたらしい。いのちに関わる仕事にしたいと、この春から高校生活をはじめた。娘よ、夢をカタチにできるよう、ガンバレ！

グリーンコープ生協おか副理事長
小川ちはる

「抱樸館福岡を地域づくりの拠点にしたい」

グリーンコープのホームレス支援の拠点として、誰もが1日も早い開所を望んだ抱樸館福岡。5月1日、開所式を終えていよいよ活動がスタートします。

ホームレス者の自立をサポートするスタッフは総勢18人。中でもマンツーマンで寄り添う相談員は、館長の青木康二さんをはじめとする9人。準備段階から関わってきた瀬崎篤弘さん、久保和雄さん、市丸さやかさんの3人に抱樸館福岡にける思いを聞きました。

ホームレス問題を考える 14

ホームレス者が路上生活から自立するのを支援し、さらにその自立が継続するようサポートするのが相談員の仕事だ。具体的には巡回相談・生活相談・アフターケアの三つで、マンツーマンの担当制とする。家族・親類、友人とのつながりが切れているホームレス者が、人との絆をもう一度回復して立ち上がれるよう、相談員はまずその人が信頼する最初のひとりに名乗りをあげる。だから「担当する」とは生やさしいことではない。一生付きあう覚悟で臨む。

3人の相談員の中で一番若い23歳の久保和雄さん。2009年、大学を卒業して求職中に、支援機構に携わっている知りあいの牧師から職員募集の話聞いた。学部は福祉系ではないが、福祉に関心があり応募した。高校生の頃、その牧師から北九州市で「炊き出し」があるから来ないかと声をかけられ、参加したことがある。当時の北九州は支援体制も十分ではなく、もっとホームレス者は多かった。日本にこんな人たちがいるんだと驚いた記憶がある。

採用後に研修がはじまり、いざ生活相談の場に臨むと不安になった。こんなに若い自分の言うことを、辛酸をなめてきたホームレス者が受け入れてくれるのだろうか。だが不安はすぐに消えた。年配の人から相談を受けたり、「君だけに言うけど…」と心の奥を明かしてくれる人もいた。今の自分のままでまっすぐ向きあえばいいのだと安堵した。研修期間中10人の相談にあたり、そのうちの3人は自立するためのアパート入居まで付きあった。「これからも必要とされる限り関わっていきたい。本当は自分たちの出番がなくなるのがいいのだけれど、一つひとつ押し出すような話しぶり。誠実さがにじみ出る。市丸さやかさん、25歳。大学卒業後、大手通販のコールセンターに就職した。だが、駒のように働かされることに違和感をおぼえ退職。自分を生かすため小規模な商社に転職したもののそこまじめな



竣工間近の抱樸館福岡のようす



久保和雄さん

そのような時にNPO法人北九州ホームレス支援機構スタッフの先輩から声をかけられた。思ってもいなかった職種に少し迷ったが、「人生一度きり」と踏み切った。支援機構で昨年9〜12月の3ヵ月間生活相談事業の研修を受け、今年から福岡市の巡回パトロール、炊き出し、自立者の病氣見舞いなどに日々忙しい。「巡回」などに関わりはじめて当初は、ホームレスの人たちがどういう精神状態にあるのかつかめなかった。何回も顔を合わせるうち、ひとりで路上に暮らす不安や寂しさが分かるようになり、同時に「この次も来てくれ」と心待ちにされるようになった。ホームレス者に限らず、人を真に理解するには時間がかかる



市丸さやかさん

最近20数年も路上で生活しているという人に巡回先で出会った。自分が生きてきた時間にほぼ匹敵する長さ。驚く一方で、その人にとって人生とは何なんだろうと考え込まざるを得なかった。今、目の前に展開されているのは紛れもなくリアルな人間の生。その重さにしつかり向きあおうと覚悟を決めている。

瀬崎篤弘さん、34歳。大学・大学院を通して社会病理学をテーマとし、主に外国の貧困事例を研究していた。その研究のフィールドは主にイギリスなどの先進国だった。格差社会が生み出す貧困やドラッグなどの病理。やがて日本もと思えた。ところがみるみる足下が揺らぎはじめた。「日本の社会状況の方が自分たちの研究を追い越しはじめた」と感じ慌てた。

緑あつて2008年11月支援機構に入職。館長の青木さんと共に一切を牽引する立場となった。正式に採用となる少し前、北九州で最初のパトロールに出かけた時のことだ。青いビニールシートのテントの中に、歳をとり病気が弱りきっているホームレス者を見つけた。弁当を差し出すと「ありがたうございます」と押し頂いた。こうした現実があるとは…。その衝撃は今も言葉にできない。

“みんなで利用キャンペーン” はじまります

グリーンコープのこだわり+人気商品がもっともって利用しやすい「みんなで利用価格」になってつぎつぎにカタログに登場します。

まずは、お魚からスタート

…カタログGREEN8号(5月3日週配布～)

グリーンコープの魚介類はとってもおいしい。それがさらにバラエティ豊かに、そして価格も下がります。

…魚以外にもいろんな商品の値下げや新商品の登場が目白押し

※この価格はメーカーや生産者のみなさんが、原料仕入から出荷まであらゆる点を見直し、知恵を絞って実現した価格です。グリーンコープのこだわり商品を食卓にのせましょう。

6月からは、ジュース用(加工用)トマトを使った商品


…カタログGREEN13号(6月7日週配布～)

組合員の利用が増えたことにより、トマト関連商品価格に含まれていた、生産奨励金を見直しました。それによって値下げが実現!!

秋からは、ハム・ソーセージ

産直豚で作った安心・安全なハム・ソーセージは人気商品! たくさんの組合員に利用され、この秋、値下げが実現します。

これからもグリーンコープのこだわり商品の利用をさらに広げていきましょう。




瀬崎 篤弘さん

これまで人の縁という、地縁・血縁・職場の縁だった。抱樸館福岡を「ホーム」に帰っていく「ゆるぎ」に

だが1998年以降自殺者が年間3万人を下る年がなく、ホームレス者が急増するという現実。そうした縁がもはや機能しなくなっているということを示している。相談員たちは新たな人間の繋がりを「抱樸館福岡」から創りあげたいと願っている。

市丸さんは巡回先の博多駅で、ホームレス者から「元ホームレス仲間がたずねてきてくれた」という話を聞いた。2人ともお金もないので、博多駅で出会い一緒に野宿して旧交を温めたという。「2人の再会が抱樸館でできたらいいなと思う。それから、寂しくて暇だからお酒を飲むというホームレス者もいた。そんな人は自立後、昼間は抱樸館に来て夜自宅に帰るのでもいいのでは」。抱樸館をたくさん出会うの場にも思う。「物理的な支援だけでなく、いつでも帰ってこられる場所、いつでも相談に行ける場所にしてほしい。めざすは明るい抱樸館」

現場を統括する青木さん。「若い僕たちは相談員としてはまだまだ未熟です。でも、グリーンコープのみなさんと支援機構の20年の経験に支えられて、人間として対等な関係でホームレス者にずっと寄り添っていくということに合意しています。それさえあれば前へすすめると確信しています」。

「抱樸館福岡」発の地域づくりがゆっくりと出帆した。

福岡! 僕は抱樸館福岡のある多の津を有名にしたいんです。ここにこんなに豊かに人を生き生きとさせる場所があるって」。

瀬崎さんは「抱樸館は母校というイメージかな」と言う。ホームレス者は人との縁が切れている。まず抱樸館で人生を組み立てなおしてほしい。そして抱樸館を拠点として、地域にこれまでとは違う新しい人の繋がりをつくりたい。社会に「人と人との繋がりのあり方」をもう一度問い直していきたいと抱負を語る。

うちのメーカー

96

佐賀市
(株)丸きんまんじゅう

うちの生産者



お菓子づくりにグリーンコープのこだわりをこめて

ふわっとクリームケーキ



グリーンコープは単協商品開発に積極的
に取り組んでいる。単協と連携しながら、数々の
グリーンコープのこだわりの和洋菓子を
積極的に登場させているメーカーの一つが(株)
丸きんまんじゅうだ。

今回は「ふわっとクリームケーキ」を
製造中の工場を訪ね、10年以上グリーンコ
ープ商品の担当部長下田祐次さんに話を聞
いた。

「ふわっとクリームケーキ」の製造工程

主な原材料
産直たまご、国産小麦粉、砂糖、カスタードクリーム、
生クリーム



①原料は前日に計量。
赤色の袋に入れているのは材料に間違っ
て包材が混入しても
すぐ分かるように



②たまごはグリーンコ
ープの産直たまご。
白身と黄身を別立て
にし、泡が潰れない
ように混ぜる。手作
業のようないねい
さだ



③焼型に生地を
流し入れる



④棚ごとオープンに
入れて焼く



⑤カスタードクリ
ームと生クリームを入
れ混ぜたものを入れ
て、元氣くんの焼
印をおす



⑥できあがり

たまごは製造する日に入荷する「産直たまご」。その日の状態で泡立ち方も違う。泡立ちによっては焼き色にムラができる。各工程で目視で不良品ははじかれる。効率的ではないが、生きている原料を使うからというのがメーカーのポリシーだ



下田 祐次 部長

「ふわっとクリームケーキ」の開発に取り組み、国産小麦粉、国産フルーツのケーキ作りに挑戦し、悪戦苦闘した。新しく導入した大型

「フルーツロールケーキ」「コーヒーロールケーキ」の開発に取り組み、国産小麦粉、国産フルーツのケーキ作りに挑戦し、悪戦苦闘した。新しく導入した大型

丸きんまんじゅうの創業は1950年。和菓子のメーカーとして佐賀市に誕生、職人の技でこだわりの菓子作りをはじめた。

1997年、本社移転に伴い、新規の機械を導入して、近代的な設備を整え、業務の拡張をはじめた。グリーンコープとの出会いはちょうどその頃。グリーンコープは新しいケーキのメーカーを探していた。新しいロールケーキの開発に丸きんまんじゅうが手をあげた。グリーンコープの他のメーカーとのコンペを経て

「組合員との出会い」として
その頃、グリーンコープの生協がやグリーンコープ生協(長崎)は、単協商品開発の取り組みの一環として組合員と地域のメーカー各社との出会いの場となる商品交流会を開催、直接的な交流が実現した。交流会では各メーカーがたくさんの商品を持参してアピールした。その中で丸きんまんじゅうは、冷凍ケーキにな

冷凍機でマイナス43℃の急速冷凍、解凍後もスポンジの味や食感を損なうことのない冷凍ケーキが完成した。丸きんまんじゅうにとつて新しい設備の機能を生かしたジャンルへの扉が開かれた。

2005年にはグリーンコープが精力を注いでいる単協商品開発・リニューアルの取り組みにも参加しはじめた。お菓子の検討は単協の組合員による商品検討をより充実させることになった。

「直接組合員と話ができ、組合員の反響を聞くことができるのは私たちにとつてよいチャンスです。新しいお菓子作りのアイデアにもつながりますね」と語る下田さんは、グリーンコープのほとんどの単協の商品交流に足を運ぶ。そこで出される商品への質問として最も多いのが「市販品とどこが違うの?」。その回答はグリーンコープの商品へのこだわりを語ることにつながる。「国産小麦粉など国産原料にこだわる」、「食品添加物はできるだけ使わない」などの徹底はグリーンコープ商品のこだわりそのものだ。

「直接組合員と話ができ、組合員の反響を聞くことができるのは私たちにとつてよいチャンスです。新しいお菓子作りのアイデアにもつながりますね」と語る下田さんは、グリーンコープのほとんどの単協の商品交流に足を運ぶ。そこで出される商品への質問として最も多いのが「市販品とどこが違うの?」。その回答はグリーンコープの商品へのこだわりを語ることにつながる。「国産小麦粉など国産原料にこだわる」、「食品添加物はできるだけ使わない」などの徹底はグリーンコープ商品のこだわりそのものだ。

「直接組合員と話ができ、組合員の反響を聞くことができるのは私たちにとつてよいチャンスです。新しいお菓子作りのアイデアにもつながりますね」と語る下田さんは、グリーンコープのほとんどの単協の商品交流に足を運ぶ。そこで出される商品への質問として最も多いのが「市販品とどこが違うの?」。その回答はグリーンコープの商品へのこだわりを語ることにつながる。「国産小麦粉など国産原料にこだわる」、「食品添加物はできるだけ使わない」などの徹底はグリーンコープ商品のこだわりそのものだ。

2008年にはグリーンコープ生協ふくおかの商品開発子でも委員会の取り組みで「ふわっとクリームケーキ」を新規開発した。内容から包材のデザインなどまで子どもたちの意見を生かすために何度もやりとりをした。「最終の試作サンプルができて、完成!というところでの試食検討で『焦げたようなにおいがする』という意見が出されたんです。製造工程の細部を探っていくと仕上げ工程のグリーンコープのキャラクター「元氣くん」の焼印が原因ということが分かり、焼印の温度を工夫することで調整しました。できあがりOKの結果が出た時はうれしかったですね」と下田さんは単協と共に商品作りを楽しそうに振り返る。

丸きんまんじゅうは今では洋菓子の製造が全商品の

2008年にはグリーンコープ生協ふくおかの商品開発子でも委員会の取り組みで「ふわっとクリームケーキ」を新規開発した。内容から包材のデザインなどまで子どもたちの意見を生かすために何度もやりとりをした。「最終の試作サンプルができて、完成!というところでの試食検討で『焦げたようなにおいがする』という意見が出されたんです。製造工程の細部を探っていくと仕上げ工程のグリーンコープのキャラクター「元氣くん」の焼印が原因ということが分かり、焼印の温度を工夫することで調整しました。できあがりOKの結果が出た時はうれしかったですね」と下田さんは単協と共に商品作りを楽しそうに振り返る。

6割という和洋菓子の総合メーカーとなった。グリーンコープの和洋菓子を20種以上製造している。単協での商品開発もますます活発化し、丸きんまんじゅうとの単協開発が広がろうとしている。現在、米粉を使った菓子類など年間5アイテム以上が丸きんまんじゅうから提案されるようになっていく。下田さんは「昨年グリーンコープ生協くまもとといっしょにカスタードクリームを開発。これがきっかけとなりグリーンコープ用を使うカスタードクリームは自家製への切り替えをめざしています。牛乳はグリーンコープの牛乳の産地から、たまごは『産直たまご』に替えるようにすすめています。さらにグリーンコープ商品のよさがアピールできるように「丸きんまんじゅう」を意欲を見せる。

丸きんまんじゅうは今後もグリーンコープのこだわり商品を形にしてくれる頼もしいパートナーとして共に前進していく。

丸きんまんじゅうは今後もグリーンコープのこだわり商品を形にしてくれる頼もしいパートナーとして共に前進していく。

丸きんまんじゅうは今後もグリーンコープのこだわり商品を形にしてくれる頼もしいパートナーとして共に前進していく。

GM問題に ます!!



10フリーゾーンが広がってきました 第5回 GMOフリーゾーン全国交流集会 in 遊佐 2010年3月6・7日 山形県遊佐町

グリーンコープでは生物の遺伝子进行操作するという生命への冒険に反対の姿勢を貫いてきました。そのひとつ、遺伝子組み換え(GM)作物を作らない地域を広げるGMOフリーゾーン運動にも精力的に取り組みんでいます。

2006年滋賀県高島市で行われた第1回GMOフリーゾーン全国交流集会を皮切りに、ほぼ年に1度のペースで集会を開き運動の拡大をすすめています。第5回になる今回、全国から約200人が自然豊かな山形の地に集結し、全国に向けてGMOフリーゾーン宣言を発信しました。全国交流集会のようすを報告します。

また併せて「食品表示制度の抜本的な改正を求める」署名の提出について報告します。

基調講演



天笠 啓祐さん
遺伝子組み換え食品いらないキャンペーン代表

遺

伝子組み換え(GM)技術が登場して35年になる。実際にGM作物が開発されるようになったのは30年前。除草剤耐性作物と殺虫性(Bt)作物のみ。いずれもGM技術としては非常に荒っぽいものだ。

しかもいまだにこの2種類しかないということは、あくまでこの技術はうまくいっているとは言えない。除草剤耐性作物は、ラウンドアップなどの除草剤を散布しても枯れない。その耐性のない雑草や他の植物はすべて枯れる。Bt作物は、殺虫性の毒素が組み込まれているので、その作物を食べた虫を殺すための殺虫剤を使わなくて済む。しかし近年、ラウンドアップを撒いても枯れない雑草やBt作物で死なない害虫が増え

てきた。その結果、除草剤や殺虫剤などの農薬の使用量がどんどん増えるという悪循環が生まれはじめている。

GM食品の危険性

GM食品が健康を脅かすパターンが3つある。「免疫機能への影響」、「世代を重ねていった時の影響」、「肝臓、腎臓など毒物を分解する臓器への損傷」。マウス実験の結果、幼いマウスと年取ったマウスにそれらの影響が大きいということが分かった。これは人間にも当てはまるのではないかと

ミツバチや家畜への影響

最近世界的にミツバチの減少が問題になっている。北米では広範囲にミツバチがいなくなるといふ現象が起っており、米国全体で4分の1以上、240万匹のミツバチがいなくなつたことになる。原因については、ネオニコチノイド系農薬がクロロズアップされて

いるが、電磁波やBtコーンもミツバチを寄せつけないことから、複合的な影響が有力視されている。Bt作物が花粉を散らすことは殺虫剤を撒くと同じ。それが昆虫に影響するのは必ずだ。この他にもGM作物の影響がさまざまな形で昆虫に現れているという報告が聞かれる。

またインドでBt綿を取った後の牧草地で、草や葉を食べた羊や山羊が死亡するケースが相次いだ。Bt綿は農薬の使用量を減らすのが目的なので農薬の影響は考えにくい。とすればBt綿そのものが影響しているのか、インド政府が調べようとしないので、原因はいまだによく分かっていない。

GM動物の登場

GM動物食品がまもなく商品化されようとしている。最初に登場しそうなのが、

遺伝子組み換え作物は生物多様性を破壊し、食の安全を脅かす

3倍のスピードで成長する巨大鮭だ。遺伝子操作をして成長スピードを速めた鮭は気性が荒く、暴走になる。巨大なので周りにいる鮭を蹴散らし、メスを周りに寄せていく。ところがGM技術で成長を早めているため生殖能力はほとんどない。そのため次世代が生まれにくいという問題が生じる。また、3倍の速さで成長する鮭の脂肪も大きく増える。そこに取り込まれる環境中の毒素の量も通常の鮭より何倍も多くなる。成長ホルモンの濃度も高いので、それを摂取することによる影響が懸念される。しかもGMであることはどこにも表示されない。このように表示されない食品として出ま

る。また、3倍の速さで成長する鮭の脂肪も大きく増える。そこに取り込まれる環境中の毒素の量も通常の鮭より何倍も多くなる。成長ホルモンの濃度も高いので、それを摂取することによる影響が懸念される。しかもGMであることはどこにも表示されない。このように表示されない食品として出ま

る。また、3倍の速さで成長する鮭の脂肪も大きく増える。そこに取り込まれる環境中の毒素の量も通常の鮭より何倍も多くなる。成長ホルモンの濃度も高いので、それを摂取することによる影響が懸念される。しかもGMであることはどこにも表示されない。このように表示されない食品として出ま

る。また、3倍の速さで成長する鮭の脂肪も大きく増える。そこに取り込まれる環境中の毒素の量も通常の鮭より何倍も多くなる。成長ホルモンの濃度も高いので、それを摂取することによる影響が懸念される。しかもGMであることはどこにも表示されない。このように表示されない食品として出ま

る。また、3倍の速さで成長する鮭の脂肪も大きく増える。そこに取り込まれる環境中の毒素の量も通常の鮭より何倍も多くなる。成長ホルモンの濃度も高いので、それを摂取することによる影響が懸念される。しかもGMであることはどこにも表示されない。このように表示されない食品として出ま

る。また、3倍の速さで成長する鮭の脂肪も大きく増える。そこに取り込まれる環境中の毒素の量も通常の鮭より何倍も多くなる。成長ホルモンの濃度も高いので、それを摂取することによる影響が懸念される。しかもGMであることはどこにも表示されない。このように表示されない食品として出ま

生物多様性の現状

地球上には1000万種、3000万種の生物が存在すると言われているが、その実態は正確に把握されていない。同時に熱帯雨林の伐採などにより、種の滅亡が加速しているのも事実だ。生物多様性とはさまざまな生物がお互いに関係しあいながら全体の均衡が維持でき

生物多様性条約のポイント

今年10月名古屋で開催される、COP10/MOP5

(生物多様性条約第10回締約国会議/カルタヘナ条約第5回締約国会議)では、GM作物による環境破壊が焦点となっている。

生物多様性条約は地球上のすべての命を守る条約である。これは1992年リオ・デ・ジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」で署名成立した。条約の重要なポイント

は、生物多様性は予防原則に立たないと守れない。疑わしい状況でも対策を講じないと環境は守れないことを明確に打ち出した。生物多様性の基本は種の多様にある。GM技術は、その種の壁を越えて別の種の遺伝子を入れる技術だ。それによる影響に対し、特別な規制が必要であるとしてカルタヘナ議定書が作られた。

ここではGM食品の輸出入による国際間の移動を規制するというのが盛り込まれた。そして環境へ悪影響を及ぼした時の責任のあり方と修復、賠償責任の方法を4年以内に確立することを輸出国に求めた。それはMOP5で検討されることになっている。

前回のボン(ドイツ)での締約国会議で、日本は輸入国でありながらアメリカの代弁をして規制を弱めるように発言した。その上、全体的な大枠が決まっていたのに、その合意を妨

げてしまった。そのため決まるものも決まらず、結局今回の名古屋での締約国会議(MOP5)に持ち越されてしまった。カルタヘナ議定書は生物多様性条約よりも締約国が少ない。生物多様性は、汚染の責任を国や企業に負わせることによつて守られる。アメリカ、カナダ、アルゼンチンなどのGM作物輸出国が、これを締約していないにもかかわらず、大きな影響を及ぼし続けていることが問題である。今回の締約国会議では、ホスト国である日本の姿勢が問われることになるだろう。

生物多様性を破壊するGM作物はいらない

2014年、モンサント社の除草剤耐性大豆の特許が切れる。その時モンサント社はどのような対応をするだろうか。もしも特許を明けないということになれば、各農家が勝手に栽培できるようになり、野放しになる可能性がある。もちろん日本でも栽培されるだろう。

GMフリーゾーン運動がなぜ必要か、これは重要なテーマだ。まずGM作物を作らせない面積をどれだけ広げられるかが私たちの課題だ。この全国交流集会は、ますます重要な意味を持つてくるのではないだろうか。



グリーンコープは 反対し続け

GM

食品表示制度の抜本的な 改正を求めて、署名提出!!



民主党参議院議員の大河原さんに署名を渡す天笠さん

食べものの本当の安心・安全を得るためには、徹底した食品表示が必要であると考え、グリーンコープは、「遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン」を中心に集う全国の仲間と共に食品表示問題に取り組んできました。

2010年3月26日、「食料の自給率向上と食の安全・安心の回復に向けて、食品表示制度の抜本的改正を求める」署名を国に提出しました。

現政権はマニフェストの中に、食品のトレーサビリティ(追跡可能性)・システムの導入や食品表示の拡大(遺伝子組み換え食品及びクローン動物由来食品の表示義務など)を明記しています。このことは食品表示制度の抜本的改正に向けた大きなチャンスと言えます。

産地表示など 食品表示の必要性

食のグローバル化と低価格競争がすすみ、日本では多くの食べものを海外に依存しています。その結果、違法な農薬残留事件や毒物混入事件、産地偽装事件など、食の安心・安全を脅かす事件が起きてきました。

現状では、私たち消費者は、食品にどんな材料が使われているか、どこで誰がどう作ったかというのを確かめてから食品を選ぶことはできません。そのような状況の中で、特に切実に求められているのが、加工食品の原料産地表示です。ミニマムアク

食のグローバル化と低価格競争がすすみ、日本では多くの食べものを海外に依存しています。その結果、違法な農薬残留事件や毒物混入事件、産地偽装事件など、食の安心・安全を脅かす事件が起きてきました。現状では、私たち消費者は、食品にどんな材料が使われているか、どこで誰がどう作ったかというのを確かめてから食品を選ぶことはできません。そのような状況の中で、特に切実に求められているのが、加工食品の原料産地表示です。ミニマムアク

大豆・納豆などごく一部の食品にとどまっております。食用油など多くの食品には表示義務がありません。日本でもEUのようにトレーサビリティを確立し、すべての食品と飼料のGM表示を義務化する表示制度が必要とされています。加工食品の原料産地表示ができれば、GM食品も同様に原材料が遺伝子組み換えであるかどうかの表示ができるようになります。食の不安をますます増大させているクローン家畜由

セス米違法流通事件後、米とその加工品にトレーサビリティと原産地表示を義務付ける法律「米穀等の取引情報記録と産地情報の伝達法」が制定されました。この法には付帯決議に「加工食品全般のトレーサビリティと原産地表示の義務化の検討」が掲げられています。この動きを消費者の力で推しすすめていくことが食品の安全・安心を保障していくことにつながっていくと言えます。

食品表示改正のための請願

食品表示の抜本的改正を求める署名活動に盛り込んでいる請願項目は、次の3点です。
・加工食品原料のトレーサビリティと原料産地の表示を義務化すること
・全ての遺伝子組み換え食品・飼料の表示を義務化すること
・クローン家畜由来食品の表示を義務化すること

その結果、全国から325,125筆(うちグリーンコープ42,161筆)の署名が寄せられました。署名提出当日は、「食の安全と食の自給率向上のための食品表示学習会」(講師天笠啓祐さん)を開催しました。その後、紹介議員へ署名を提出しました。参加者からは「消費者の権利を守ってほしい。私たちが選択できる制度をつくってほしい」という意見が出されました。紹介議員を代表して参議院議員大河原雅子さんから「皆さんの思いが実現するよう、国民の安全を守るよう頑張りたい」という力強い挨拶がありました。

開会の挨拶

GM作物の栽培やGM食品に対する反対運動は、日本はもちろん、世界各国で広がっています。生物多様性の問題を含め、今後ますます反対の輪が広がることは間違いないと思います。また広げなければなりません。このような中で、今年10月名古屋で開催されるCOP10/MOP5に向けGMOフリーゾーンの拡大とGM食品いらない運動の波を遊佐から発信できることを大変光栄に思っています。



大会委員長 碓谷肇さん
庄内みどり農業協同組合代表理事専

海外ゲストメッセージ



フィル・ベレアノさん
ワシントン大学名誉教授

私たちが忘れてはいけないことは、GM汚染は仕方がないとあきらめてしまわないことです。そのため私達は連帯し、協力していくことが大切です。



イジュウ 李宰郁さん
韓国生活協同組合全国連合会事務総

人間は自然の一部であり、謙さを持って自然と共に生きていべき。予測もできないGM汚染子孫と地球環境が壊されないように共に闘いましょう。

消費者リレー報告

グリーンコープでは昨年の宮崎県綾町での全国交流集会をきっかけに組合員、生産者と共にこれまで以上にGMOフリーゾーンを広げていこうと取り組んでいます。私たちの地道な活動の一つひとつの積み重ねが大きな力になると思っています。皆さん一緒にがんばりましょう。



グリーンコープ生協みやざき理事長 杉尾紀美子さん

生産者リレー報告

昨年の第4回集会には全国から約600人が宮崎県綾町にお越しくださいました。綾町をいただきました。綾町は自然生態系農業条例を制定した有機農業の町として、これからは安心・安全でおいしい野菜作りをすすめていきます。



グリーンコープ産直生産者グループ綾菜会会長 小田道夫さん



再生したカネシゲファームは 新たなネグロスの農業の拠点

グリーンコープ共同体代表理事 田中裕子さん

グリーンコープは、「南と北の共生」をカタチにするために「ネグロスとの連帯」に取り組んでいます。20余年を経てネグロス民衆は飢餓から脱出し、確実に自立の道へ歩みをすすめています。今新たに農民運動の拠点として、再生したのが「カネシゲファーム」です。

新たに出発する「ネグロス」とその拠点の「カネシゲファーム」を視察するツアーにグリーンコープから共同体代表理事田中裕子さんはじめ組合員3人が参加しました。その報告書を紹介します。



カネシゲファーム・ルーラルキャンパス



右から西本幸子さん(前共同代表理事)、田中裕子さん(共同代表理事)、田原幸子さん(グリーンコープ生協 ふうおか理事長)



20年以上に亘り、APLA(旧日本ネグロス・キャンペン委員会)をとおしてのフィリピン・ネグロスへの支援・連帯を続けてきました。その象徴であるカネシゲファームが「カネシゲファーム・ルーラルキャンパス(農村キャンパス)」として新たに出発することになり、その開所式に参加しました。現状のようすを共有し、今後のさらなる連帯を確認しました。

2009年7月、平地や高台など起伏に富む5haのカネシゲファームは、農場の修復活動が開始されました。ネグロス島における具体的な支援事業として、カネシゲファームで展開される農民学校及び若者育成のための実践農場、さらに豚舎からパイオガスを引いたり、BMW技術で作った活

第一期研修生は各地から16歳〜23歳までの5人が集まりました。実践農場がはじまって8カ月、オーブニングセレモニーは、ネグロスの農民グループ、地元の人々、農場周辺の交流のある小学校の先生、バナナ村青年部、関係団体、北部ルソンの農民、周辺農民などたくさんの方々が参加し、お祝いのメッセージや歌、踊りなどが披露されました。グリーンコープからの参加者も、お祝いのメッセージと歌を届けました。昼食は農場で収穫された新鮮な野菜や豚肉で作られた料理をいただきました。



故 兼重正次さんのお墓で

と失敗を重ねながら、若い農民たちの学校ができないかというの大きな夢でした。若い人が地域を捨てない、逃げ出さない、農民の誇りだけでなく、きちんとした物を作って、売る、そして生活を作っていくことが、この農場の目的です。一世代前の人々が血と汗を流してきたことを忘れずに、地域の中で、連帯を守りつつ、夢の実現に向かうネグロスの農民のために皆さんの協力を願いたい」という、APLA共同代表の秋山真兄さんの熱いメッセージでセレモニーは終わりました。

ネグロスとの連帯は、グリーンコープの「四つの共生」のひとつである「南と北の共生」の基礎・根幹として、前進してきました。そして、ネグロスを越えア

「ネグロスとの連帯がはじまって25年、多くの成果がもたらされた。APLA主催の「新たなネグロスに出会うツアー」に、グリーンコープから組合員3人、同行組合員事務局1人の4人で参加しました。

1980年代半ば、「砂糖の島」と呼ばれていたフィリピン・ネグロス島は世界的な砂糖価格の暴落に見舞われ、多くの子どもたちが飢餓に直面しました。1986年、日本では日本ネグロス・キャンペン委員会が発足。緊急支援がはじまります。

その後グリーンコープ前身協の組合員がネグロスの民衆と出会い、「私たちは魚ではなく魚をとる網がほしいのです」という自立を望む声を聞きま

カネシゲファーム・ルーラルキャンパス開所式

グリーンコープ共同体組合員事務局 俣野啓子

ナナが生産できない時期が続く、兼重さんは対策に尽力しました。兼重さんは1995年病気で亡くなりました。ATJ(オランダ・トレッド・ジャパン)によってカンラオン山の山麓にバナナのニューアルのための実践農場が作られ、同時にバナナだけに頼らない循環型農業の模索がはじまりました。この農場は兼重さんを偲んで「カネシゲファーム」と名づけられました。

今回のツアーの目的は、ネグロス島における地域自立活動と民衆交易の歩みを確認すること、農民学校として生まれかわったカネシゲファーム・ルーラルキャンパスの開所式への出席でした。

再生したカネシゲファームに集い集立っていく若者が、新しい自立した農業のカタチを広め、人から人、地域から地域へとさらにつなげていくことを願う訪問となりました。

報告

チェルノブイリ支援募金にご協力ありがとうございました

- 参加した組合員数 678人
- 募金総額 2,300,000円

募金は「NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク」とおして、被災者支援のために役立てられます。主には日本の医療専門家を含めた検診団の派遣費用や医療機器などの購入に使われます。被災者の苦しみは今なお続いており、まだまだ支援が必要です。グリーンコープはこれからも支援していきます。

フランスでの多重債務者対策と生活再生支援のようすについて



左から行岡さん、吉見さん、陣内さん、鳥山さん、高橋さん

多重債務問題フランス調査報告会

終身雇用型労働形態の崩壊など社会情勢の変化によって多重債務が生活者にとって大きな問題となる中、グリーンコープは2006年、生活再生事業をスタートさせました。同年福岡市に開設された生活再生相談室は、福岡県の予算が付き北九州市、久留米市、直方市に広がり、グリーンコープエリア内ではくまもと、おおいた、やまぐち(長崎)に開設されています。

多重債務は日本だけの問題ではなく、世界に波及しています。フランスが多重債務問題の予防や事後の取り組みに先進的であり、グリーンコープ生協ふくおかは、2009年9月17日、22日、フランスの行政や民間団体、NPOなどの視察・調査に取り組み、報告をまとめました。

2月18日に福岡市で行われた報告会には組合員約250人が集まり熱心に耳を傾けました。報告会のようすを紹介します。

冒

頭にグリーンコープ生活再生相談室室長の行岡さんから相談室の状況報告があった。社会状況の悪化により2009年度の相談件数は2007年度の2倍近くに、組合員比率は40%と高くなっている。「組合員の役に立っていない」と思う反面、再度相談に来られる人が増えるなどの課題が見えてきました。私たち相談員もレベルアップを図りたいと思っていた時に、多重債務対策では先進地のフランスに家庭経済ソーシャルワーカー(CESF)というお手本があることを知り調査に取り組みました」と目的について話があった。

調査報告

金融セクター諮問委員会
多重債務委員会

報告者 高橋伸子さん
「金融セクター諮問委員会」はフランス銀行の中に法律によって設置されており、日本の多重債務者対策本部に当たる。多重債務問題が会の議題の3分の1を占める。



司会の佐藤さん

調査研究員
高橋 伸子さん(生活経済ジャーナリスト、金融庁多重債務者対策本部有識者会議委員)
佐藤 順子さん(佛教大学福祉教育開発センター講師、全国クレジット・サラ金問題対策協議会セーフティネット貸付実現全国会議副代表)
鳥山まどかさん(北海道大学教育学部教育学大学院助教)
陣内 恭子さん(マネー塾主宰、実践的金銭管理教育研究家)
吉見やよいさん(グリーンコープ家計とくらしの応援ワーカーズ円縁代表)
行岡みち子さん(グリーンコープ生協ふくおか生活再生相談室室長)



訪問日程	訪問先機関
9月17日	労働・社会関係・家庭・連帯・都市関連省(旧来の労働省)社会アクション総局 金融セクター諮問委員会(フランス銀行内)
9月18日	多重債務委員会(フランス銀行パステュー支店) 社会労働研究所
9月21日	公共金融教育研究所/スクール・カトリック(NPO)本部
9月22日	クレジユス(NPO)パリ支部/パリ市アクションセンター

労働・社会関係・家庭・連帯・都市関連省(旧来の労働省)社会アクション総局
社会アクションセンター

報告者 鳥山まどかさん
「社会アクション総局」は日本の厚生労働省に当たり、国の福祉政策を担っている。

「アクションセンター」は日本でいう福祉事務所のようなどころ。困難に遭遇しているさまざまな人への相談支援を行っている。お金の問題は生活の問題と切り離せないとし、家計管理の専門の相談員であるCESFが解決に当たる。お金をコントロールできるようにすると生活もコントロールできるようなことになる。そうして相談者が自信や自尊心を回復していくよう支援している。

社会労働と社会的リサーチのための研究所
公共金融教育のための研究所
報告者 陣内恭子さん
CESFは、家計管理の助言や多重債務などの社会問題の相談を行う国家資格。その養成講座が「社会労働

研究所」で開かれている。カリキュラムは金融、家計管理などの養成講座と実務実習。プロのCESFに指導を受けながら実務をこなす、実践でスキルを身につけていく。

業と同じように、その人に寄り添い、自ら再生できるようにいていねいに指導していく。この取り組みが国や銀行を動かして多重債務者の救済と生活再生に役立っている。

クレジユス

報告者 行岡みち子さん
クレジユスは「社会的多重債務の地方会議所」という名称のイニシャル。参加型NPO。多重債務者の法的な課題の解決、経済的問題への対処、借金の背景にある依存症といった心理的問題を解決する。

家計管理金融教育の取り組みや銀行と連携した低利の貸付に取り組んだ。また、多重債務や生活困窮者の掘り起こしのために電気やガス会社と連携し、利用料金の低減にも取り組んでいる。クレジユスを訪れた人に寄り添い解決しようとするようすは、グリーンコープ生活相談室の活動と通じるものがあり、勇気ももらった。

「公共金融教育のための研究所」は金融に関する情報や教育の普及活動を市民(青少年、親、教師)に対して行うことを目的としたNPO法人。日本で各地域にある金融広報委員会や文部科学省の教育支援センターと同じ役割を持っている。

スクール・カトリック

報告者 吉見やよいさん
「スクール・カトリック」とはカトリックの兄弟姉妹という意味の人道支援NPO。世界各地に支部を持ち、フランス国内に100以上の支部がある。多重債務者には多重債務委員会への申請の手助けをする。同時に救済や借入金の和解交渉などを行う。マイクロクレジット貸付も行っている。グリーンコープの生活再生貸付事

まとめ

佐藤順子さん
フランスが多重債務問題に真剣に取り組んでいることは、国が直接関わっていることに顕著に現れている。多重債務者は、借金だけでなく家庭内暴力や児童虐待など、家庭の問題も抱えていることが多い。フランスはそこに積極的に関与して、CESFが家計管理と共に家庭の抱える問題に対処している。フランスの実践はグリーンコープの生活再生事業に通じる。福岡の取り組みが全国に広がるように、情報発信をしていきたい。

報告終了後、ふくおか理

事長田原幸子さんから「生活アドバイザーを含めた家計管理指導の必要性を感じました。フランスでの調査をグリーンコープの生活再生事業に生かしてさらに充実した事業へ向かいたい」と挨拶があった。ふくおかは、3月19日にグリーンコープのめざすものを広く社会に紹介するために、東京でフランス調査報告会を行った。本紙6月号ではその内容と、今後のグリーンコープの取り組みや生活再生相談室の活動について掲載する。

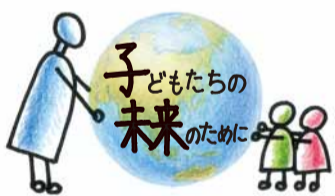
*失業や貧困状態にある人びとを対象とする小額の融資

投稿募集中

私の好きなグリーンコープ商品

- 400字程度
- A4切 毎月末
- 住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
- 住所・氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561
福岡市博多区博多駅中央街8-36
博多ビル7F
グリーンコープ
コミュニケーションワーカーズ連(REN)
「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス
rikoho@greencoop.or.jp



No.22

「被曝」について

放射性物質の体への影響を表す言葉として、「有害物質に曝されること」という意味をこめた「被曝」があり、大きく「体外被曝」と「体内被曝」の2つに分けられます。

体外被曝とは、放射線を直接浴びた場合など、人体表面から被曝することをいいます。

体内被曝は、呼吸や食べもの・飲みものから体内に放射性物質を取り込んでしまった場合をいい、体外被曝以上に危険とされています。なぜなら、「放射線の被曝量は距離の二乗に反比例するから」、つまり距離が小さいほど被曝量が膨大になるからです。また、放射性物質は体内に蓄積されていきますので、本当に心配なのは子どもたちや若者なのです。幼いほど蓄積の度合いは高くなります。子どもたちのために原発は要らないと言いつけたいと思います。

出典：2009年度 脱原発学習会資料(2010.1.25、広瀬隆さん)

グリーンコープ共同体組織委員会



左から千歳さん、湯之前さん、石川さん

いま地域を考える

No.201

多くの人に知って欲しい 高次脳機能障害



「見えない障がい」故に

高次脳機能障害とは、交通事故などによる脳外傷、脳血管障害、低酸素脳症、アルコールなど薬物中毒などによって、人間ならではの高度な機能を持つ脳の一部が傷つき、十分に働かなくなることをいう。救命救急医療の発達で、交通事故や脳卒中などで命が助かる割合は昔に比べて大きく向上した。伴って、高次脳機能障がい者も増えてきている。外見からは分かりにくいことから、「見えない障がい」と言われ、医療現場が認知しはじめたのは1995年頃。厚生労働省が2001～5年に「高次脳機能障害者支援モデル事業」を実施。診断基準、リハビリ、生活支援のプログラムや制度なども整ってきた。しかし、社会一般、医療の専門においても十分に理解

情報求めて

されておらず、対応できる施設も少ないのが現状だ。

湯之前さんの妻が交通事故で脳挫傷の大怪我をしたのは2001年。どうにか一命を取り留め、身体は回復し日常生活に戻ったが、以前の妻とは何かが違う。会話は普通だが、よく知っている場所が分からない、少し前のことが記憶できない、感情にむらぎ大きい。後に、高次脳機能障害という診断は受けたが、医療機関にもほとんど情報がない。福岡市にあった脳外傷家族会「ぶらむ」をネットで探しあてた。それから障がいについての情報を得ることができるようになった。当時、社会的にはほとんど知られておらず、新聞記者をしていた湯之前さんですらこうした状態だった。現在は、当時よりは知られる

高次脳機能障害「ぶらむ」鹿児島

ようになつてきたが、必要としている人がすぐに情報を得られるまでには至っていない。孤独な葛藤を続ける中でやっと「ぶらむ」鹿児島に出会うというのが現実だ。

地域の中に広がる活動

2004年、脳外傷家族会「ぶらむ」の会員で鹿児島県に在住していた6家族が、「ぶらむ」鹿児島支部を立ち上げた(2007年、現名称に改名)。鹿児島県で初めての会の設立を、マスコミも大きく取り上げ、会員が一挙に増えた。現在、会員は49家族126人。高次脳機能障害を持つ人は49人。年代層は中学生から60歳代後半までと幅広い。寝たきりに近い人から、家に引きこもっている人などさまざまだ。

会の存在に支えられ

千歳さんの息子は17歳で交通事故にあつた。事故後、障がいになつてくると定時制高校を卒業、専門学校に通い福祉関係の資格を取った。福祉関係の仕事に就いたが、感情の抑制が難しく3ヵ月ほどで辞めざるを得なかつた。現在36歳。どうか職を得ることができたものの、本人や家族のこれまでの苦しさは今でも話したくないという。

活動の拠点は、鹿児島市にある、ますみクリニックの協力で病院内の一室を借りている。会の運営は6人の役員が中心。2ヵ月に1回役員会を開催。会報の発行、家族会や研修会、クリスマス会、お花見などを開催。引きこもりがちな会員

湯之前さんはじめ会員のだけれども、ともすれば投げ出したくなるような現実に出したくない。葛藤し苦しんできた。「ぶらむ」鹿児島に出会い「辛いの自分たちだけではな感はずり知れない。

高次脳機能障害を持つ人は、全国で約50万人、鹿児島県内には約1000人が想定される。まだ多くの人々が、障がいになつてくると定時制高校を卒業、専門学校に通い福祉関係の資格を取った。福祉関係の仕事に就いたが、感情の抑制が難しく3ヵ月ほどで辞めざるを得なかつた。現在36歳。どうか職を得ることができたものの、本人や家族のこれまでの苦しさは今でも話したくないという。

「ぶらむ」鹿児島支部の活動は、30～40歳代が多い。どうか職を得ているのは5人ほど。障がいのために行き場がないのが現状だ。本人や家族のために、生きがいを持つことのできる居場所作りが必要だ。また、交通事故などで若い人が、この障がいを持つことも多い。障がいを持つてからの長い人生をどう生きるかが大きな課題だ。「ぜひ、作業所などの施設を開設したい」と湯之前さんは言う。

今後の目標は作業所作り

高次脳機能障害を持つ人は、全国で約50万人、鹿児島県内には約1000人が想定される。まだ多くの人々が、障がいになつてくると定時制高校を卒業、専門学校に通い福祉関係の資格を取った。福祉関係の仕事に就いたが、感情の抑制が難しく3ヵ月ほどで辞めざるを得なかつた。現在36歳。どうか職を得ることができたものの、本人や家族のこれまでの苦しさは今でも話したくないという。



パソコン教室

のために毎週一回パソコン教室を、月2回スポーツ教室を開いている。障がいを持つ当事者や家族が参加し、親睦や楽しみ場となっている。この取り組みは2009年、グリーンコープの福祉活動組合員基金の助成を受けた。鹿児島県の特長な支援として、湯之前さんたちの働きかけで高次脳機能障害者支援推進委員会が2005年に発足した。医師やリハビリの専門家などが集まり、研修会の開催や日常的な相談に応じている。また、2011年春には、県障害者自立交流センター「ハートピアかごしま」に会の拠点ができることになった。研修室や体育館も利用できる。活動は大きく飛躍する。

2010年3月の組合員数 403897人

(3/26現在)

リユースリサイクルデータ 2010年2月分

牛乳びん 回収本数 789,552本 回収率 99.0% (1月17日～2月13日回収分)	リユースびん 回収本数 189,846本 回収率 65.5%
トレー 回収重量 12,516kg 回収率 64.2%	モールドパック 回収重量 32,470kg 回収率 100.6%

フードマイレージ
2010年3月までに組合員の利用によってたまったのは

31,880,639.5
poco

CO₂に換算して3,188トンを削減したことになります

アジア民衆基金
2010年3月までに組合員の利用によってたまったのは

7,882,457円

放射能汚染測定結果報告(197) 2010年2月

放射能汚染食品測定室検査。NDは、検出限界値(1ベクレル/kg)以下です。※は、グリーンコープ連合取り扱い商品です。

検体名	産地	セシウム134	セシウム137	合計ベクレル/kg
※ 大豆	九州	ND	ND	ND
※ 大豆	北海道	ND	ND	ND
※ 奄美きび砂糖	鹿児島県	ND	ND	ND
※ マスコパド糖	フィリピン	ND	ND	ND
※ ウスターソース		ND	ND	ND